

## データでみる登山者の状況

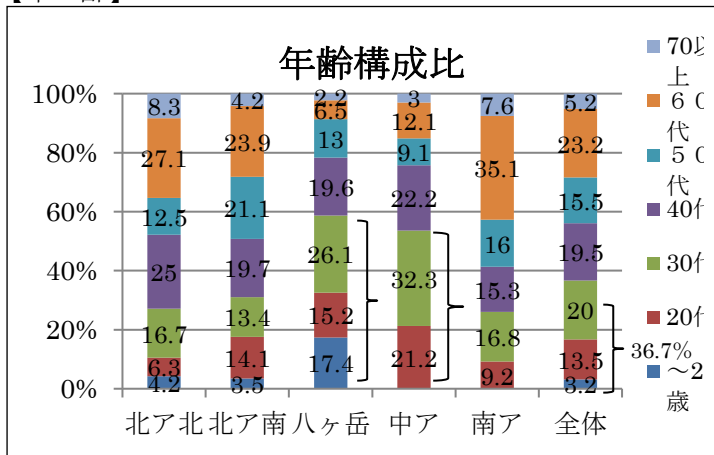
1. データの収集 長野県山岳総合センター（平成 25 年 8～9 月）

2. サンプル数

山 域	北アルプス		ハヶ岳	中央アルプス	南アルプス	合計
	北部	南部				
登山者数	48	142	46	99	131	466

3. 調査結果（分析は長野県）

【年 齢】

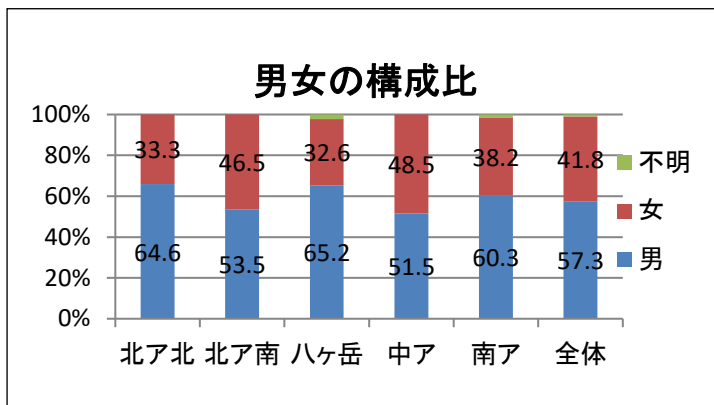


◇中高年の登山ブームと言われてきたが30代以下が36.7%となっている。  
（ハヶ岳、中央アルプスは半数を超える）

◇40代以上で 63.3%

◇60代以上が 28.4%

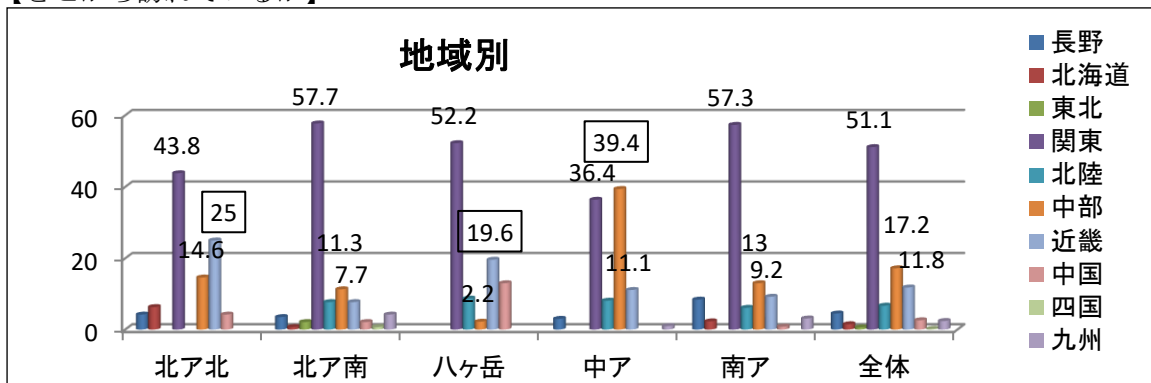
【性 別】



◇全体では男性が多い 57.3%

◇北アルプス南部、中央アルプスは女性の比率が高く、半数に迫る

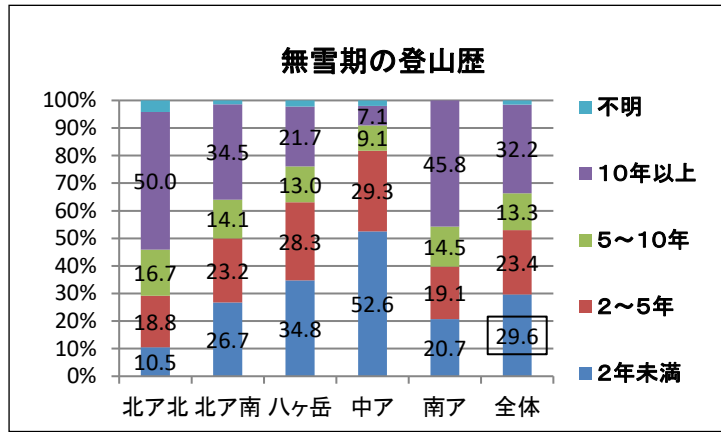
【どこから訪れているか】



◇全体では関東と中部、近畿合計で 80%を占める

◇北アルプス北部とハヶ岳は近畿、中央アルプスは中部からも多く訪れている

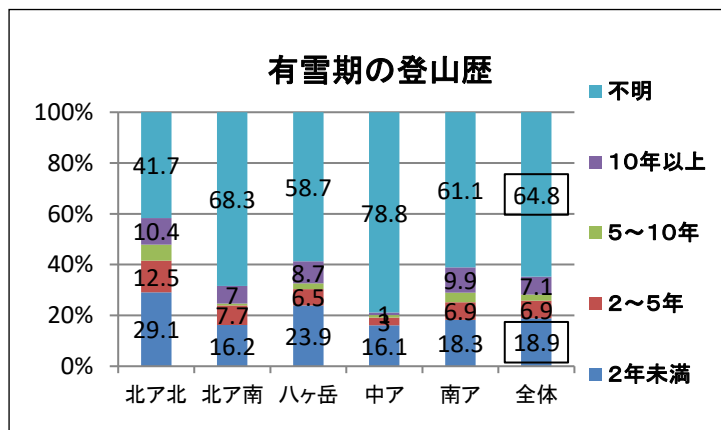
【無雪期の登山歴】



◇山域でばらつきがあるが、全体では2年未満が3割  
(富士山登山経験者がいきなり急峻な山岳を訪れるケースも)

◇中央アルプス、ハケ岳は経験が浅く、北アルプス北部は経験がある登山者が比較的多い

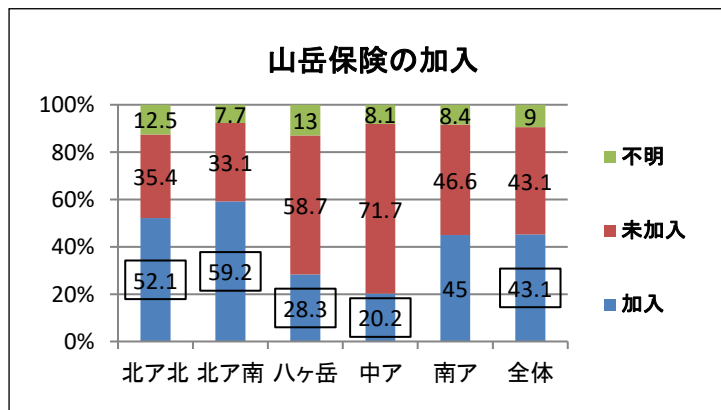
【有雪期の登山歴】



◇答えない人が全体の64.8%で、まだ一般的ではない

◇全体では2年未満の経験者が18.9%いる

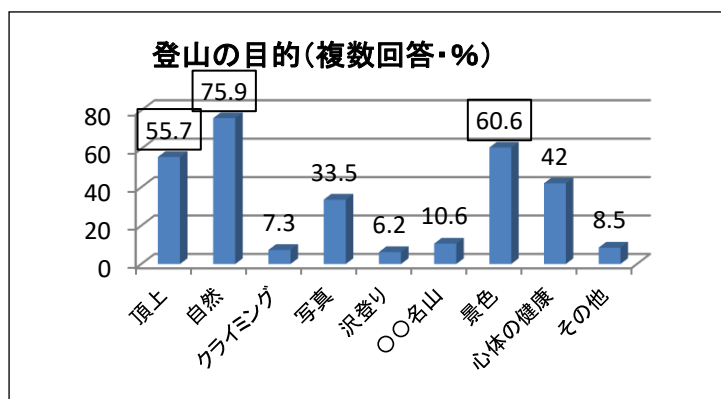
【山岳保険加入】



◇山域でばらつきがあるが、全体では43%の加入にとどまっている

◇中央アルプス、ハケ岳は加入割合が低く、北アルプスは半数を超える加入

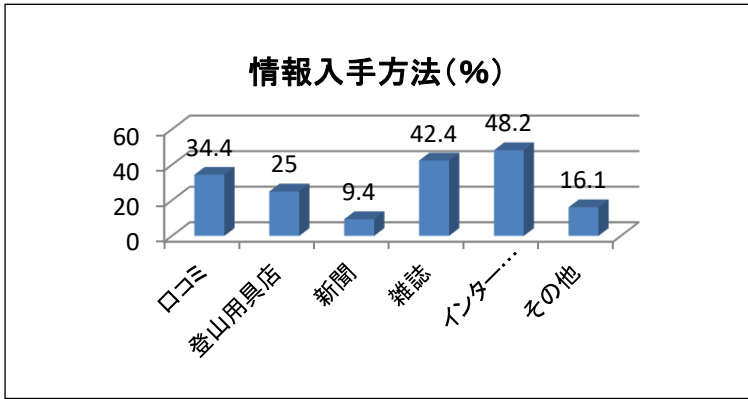
【登山の目的 (複数回答可、全回答者に対する割合)】



◇「頂上」は全体の第3位 55.7%

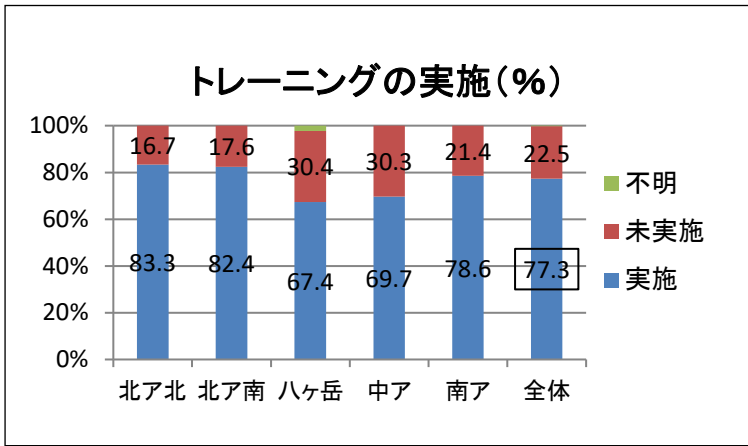
◇山の楽しみ方が多様化している

- ・第1位 自然 (75.9%)
- ・第2位 景色 (60.6%)



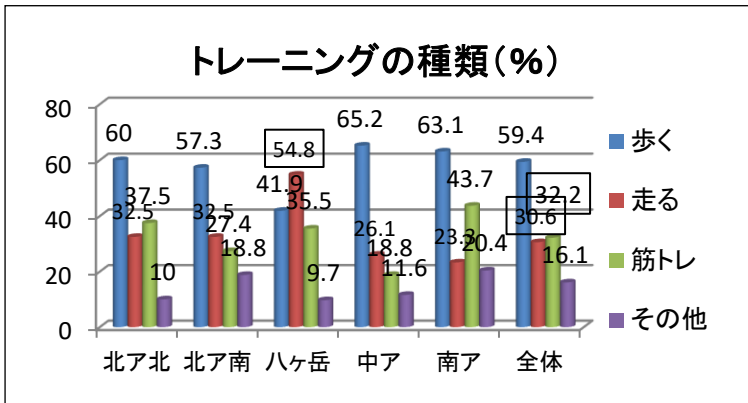
- ◇インターネットが第1位
  - ①ヤマレコ 10.9%
  - ②ヤマケイ 2.1%
  - ③山小屋 1.3%
- ◇雑誌が第2位
  - ①山と溪谷 17.6%
  - ②岳人 6.7%
  - ③PEAKS 6.0%

【トレーニングの実施】



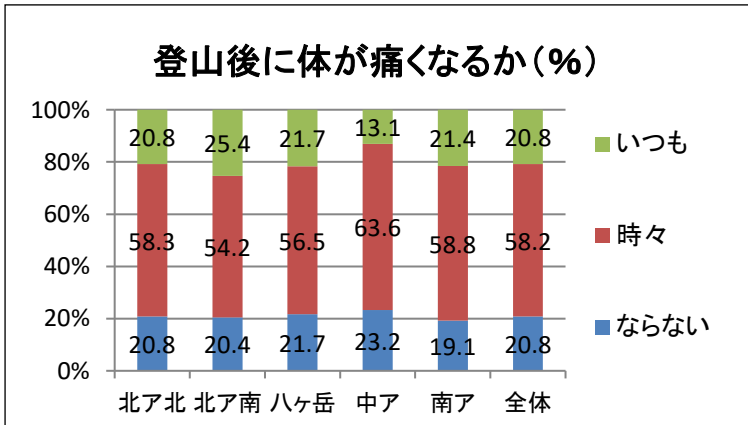
- ◇トレーニングは必要との認識はある (全体 77.3%)
- ◇八ヶ岳、中アルプスは相対的に少ない

【トレーニングの種類 (トレーニング実施者に対する割合)】



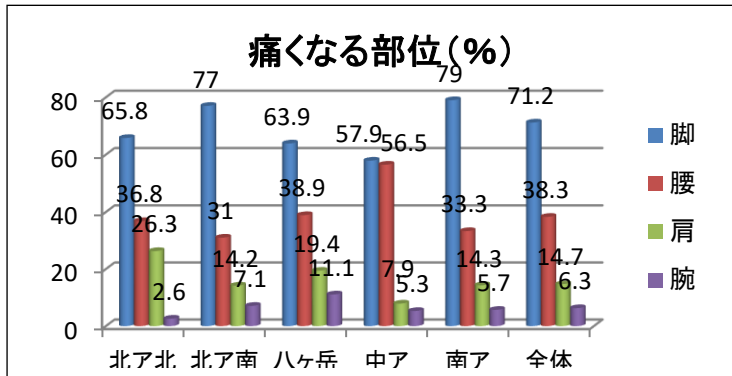
- ◇登山に必要な「走る」、「筋トレ」実施はまだ少数
- ◇八ヶ岳に「走る」が多いのは年齢構成の影響と考えられる。

【登山後に体が痛くなるか】



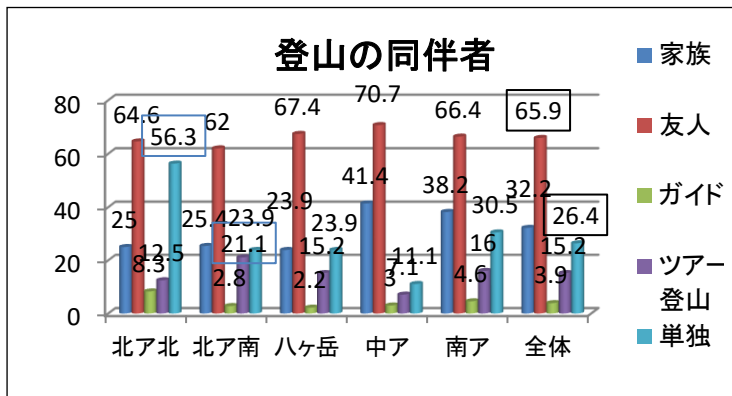
- ◇痛くなる人が多い
- ◇トレーニング不足や疲れのない歩き方ができていない人が多いのではないか

【登山後に痛くなる部位（複数回答可、全回答者に対する割合）】



◇いわゆる「足腰」が十分トレーニングされていない状況がうかがえる

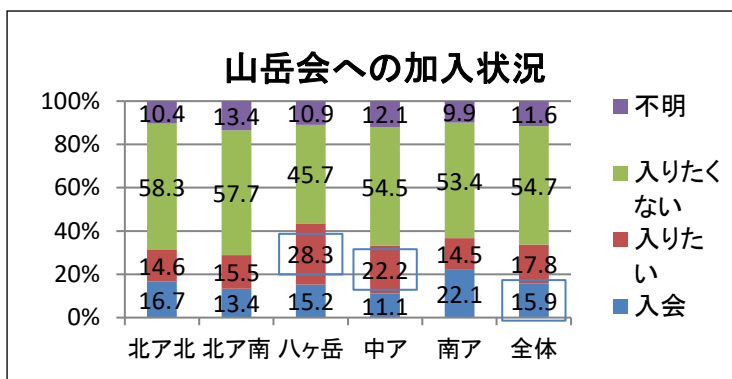
【登山の同伴者（三つまで回答可、全回答者に対する割合）】



◇友人が一番多いが、北アルプス北部の「単独」、北アルプス南部の「ツアー登山」など特徴もある

◇重大事故につながりやすい「単独」は4人一人が経験している。

【山岳会加入状況】

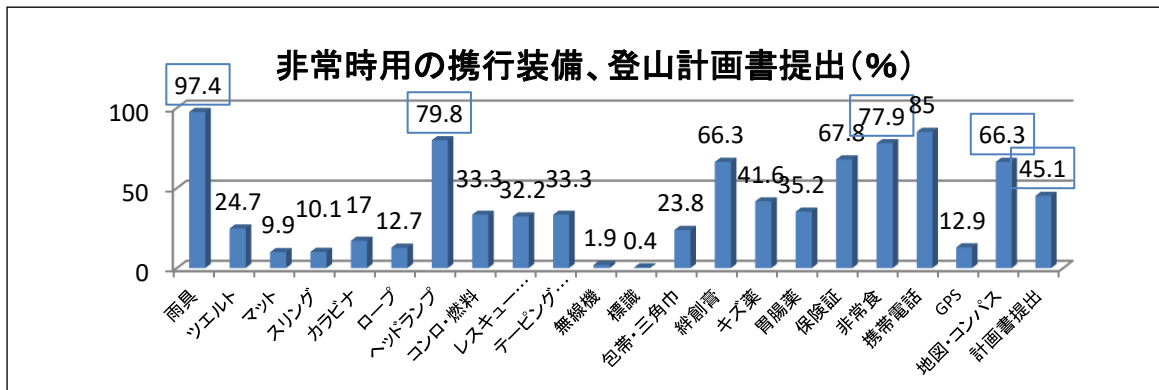


◇加入者は15.9%にとどまっている

◇年齢構成が比較的若いハケ岳、中央アルプスでは入会希望者が相対的に多い

- ・ハケ岳 28.3%
- ・中央アルプス 22.2%

【常時携帯品（複数回答可、全回答者に対する割合）】



◇雨具を持たない登山者がいる      ◇非常食、地図・コンパスもっと持つべき

◇宿泊するのが一般的な北アルプスでもヘッドランプを持たない登山者がいる

北アルプス北部 91.7%      北アルプス南部 89.4%

◇登山計画書の提出は45.1%にとどまっている